

平成29年度の議員活動

平成29年4月1日から平成30年3月31日の主な事項について報告します。

1 本会議等

・平成4月6日に開かれた議会の全員協議会で行った「学校施設の屋根を活用した太陽光発電事業」については、今後、安全性に特段の配慮を求めることにより事業をすすめることになりました。

・平成29年9月議会において宇部市公共施設等総合管理計画について、また、12月議会において新庁舎計画と公共施設等総合管理計画との関連について質問をしました。その時点では明確な回答はいただけませんでしたが、平成30年度施政方針において新庁舎の建設にあたり、勤労青少年会館など庁舎周辺の公共施設との統廃合について検討を進めることを表明されました。確実に進めてほしいと思っています。

・平成29年12月議会において、第四次宇部市総合計画後期実行計画について質問をしました。4分野すなわち、「ICT・地域イノベーションの推進」「地域支えあい包括ケアシステムと連携したコンパクトシティの推進」「ガーデンシティの推進」「地域エネルギー・バイオマス産業都市の推進」を重点プロジェクトと位置付けておられ、このことについての質問及び執行部のヒアリングを行いました。この段階において、具体的な事業がはっきりしていないプロジェクトもあると感じました。また、今議会に議案第95号「宇部市行政組織条例改正の件」が上程されました。この議案の主な内容として、4つの重点プロジェクトを重点的、組織横断的に実施をするため総合戦略局で一本化し、効果的かつ効率的に市政運営を行うための執行体制とするための改正ということでありました。総務財政委員会において十分議論しましたが、私にとって改正の必要性を理解することができませんでした。以下、本会議において反対討論をしました。議案の賛成多数をもって平成30年4月1日に新組織が立ち上がりました。

(反対討論)

議案第95号「宇部市行政組織条例改正の件」に反対の立場から討論をいたします。

今回の改正は、より効果的かつ効率的な市政運営を行うための執行体制とするための改正であるとのことですが、特に総合戦略局の新設については、来年度からスタートする宇部市第4次総合計画後期実行計画を見据えたものである

との説明がありました。しかし、この条例案が提出された時点においても、後期実行計画は骨子案の状況であり、委員会の中でも4つの重点プロジェクトにおいて具体的にどのような事務がどのくらいの人員で処理されるのか明確な回答がなく、条例案の賛否を判断する上で材料が乏しく議論が尽くせなかったというのが現状であります。

本来ならば、行政組織は執行部が、施策を実行されるうえで効果的と判断されれば、反対をするまでもないとは思いますが、今回の条例改正は来年の4月1日での組織改編となり、4つの重点プロジェクトの具体的方策を策定するとともに、総合戦略局と他の部との明確な守備範囲の決定や予算の編成、執務室の割り当て、大規模な人事異動など3か月の間に十分議論が尽くされ混乱なく処理をしていけるのか、今までの後期実行計画の事務処理の進捗状況を考えると、非常に疑問があります。

現在の組織のまま、準備をしても支障はないと思えますし、適切な人員で効果的かつ効率的に後期実行計画を進めていくためにはっきりした道筋を示された後に組織再編をされるべきであり、今回の条例改正は、拙速であり、時期尚早との考えから、反対をいたします。

・平成30年3月議会において議案第30号 「宇部市ふれあいセンター条例中一部改正の件」及び議案第48号 「第四次宇部市総合計画後期実行計画の策定について」の2議案については、平成30年3月定例会報告で述べている理由により、継続審査に付することに賛成をし、継続審査に決定しました。

2 委員会等

・平成29年5月臨時会で、常任委員会の委員改選があり、総務財政委員会及び創生総合戦略特別委員会に所属することになりました。

・一般会計補正予算については、現状、総務財政委員会で審議をしています。しかしながら、他の常任委員会の所属議員が所管する部署の補正予算については審議に加われないということになっており、検討を要請しました。

3 その他の主な活動

(1) 個人住民税の現年課税化について

平成29年12月22日にホームページで報告させていただきましたが、8回の個人住民税の現年課税化研究会で「個人住民税の現年課税化に関する中間とりまとめ」が行われ、今後、総務省内にある個人住民税検討会で検討をしていただくことになりました。早く実現するように願っています。

(2) マッチングプログラムの作成

宇部高等専門学校生産システム工業専攻の一つの科目であるエンジニアリングデザインⅠ及びⅡにおいて、「街コン(1:1)や合同就職面接会(1:N)など、多くの集団の中の人たちの最適な組み合わせをコンピュータで処理するプログラミング」を作成するために、専攻科の学生さんに取り組んでいただきました。スマホからコンピュータ本体へのデータのやり取りのシステムまで行かず完成させることができませんでしたが、貴重な経験をさせていただきました。

(3) 相談業務

平成29年度に34件の相談がありました。